平成29年度災害廃棄物処理に係る図上演習モデル事業（大阪府）

演習の目的

- 「大阪府災害廃棄物処理計画」に基づく府内連携の手順の確認
- 災害廃棄物処理の諸課題に関するロールプレイを通じた、担当者のスキルアップ

実施概要

参加者数や自治体の特性を踏まえ、２回に分けて実施

- 実施日時：平成29年11月16日、29日
- 参加者：府及び府内市町村・一部事務組合の一般廃棄物担当職員（計111名）

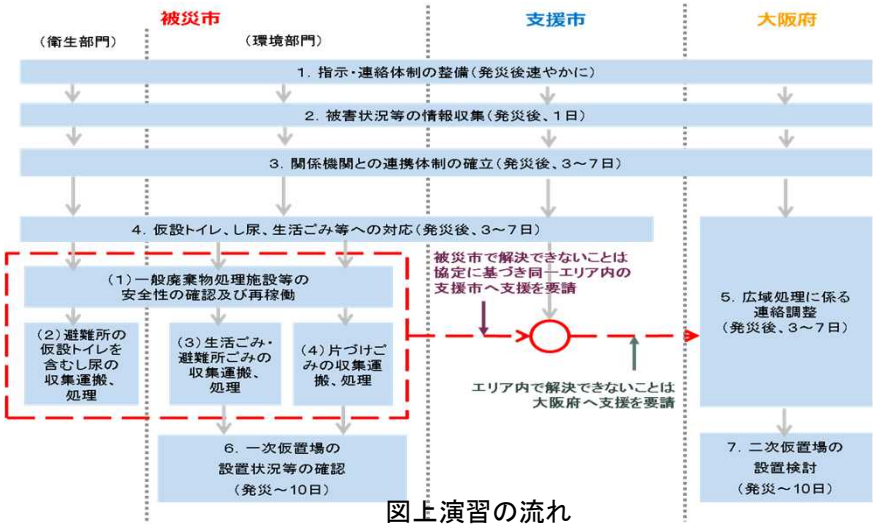
ごみ・し尿の担当者が参加。民間団体（大府連・大産連）もオブザーバーとして参加

演習の進め方

- 参加者は「被災市」「支援市」「エリア幹事市」「大阪府」のいずれかの班に所属。それぞれの立場で、災害発生時に行うべき諸業務（例：被害状況の把握・報告、人員・資機材の支援要請）を、手順に沿って模擬的に実施

状況に応じて「想定外」の課題を事務局が各班に付与し、対応能力の向上を図る

- 発災後約10日間（情報収集 ～ 体制構築 ～ 生活ごみ等の処理 ～ 一次仮置場の設置）の手順について実施



図上演習の流れ

演習で具体的に行うこと

（１）記録
- すべての行動（日時、相手方、内容等）を記録

（２）情報整理
- 班内の情報共有のため、収集した情報を模造紙等で整理

（３）検討・議論
- 班として意思決定する際には、都度、班内で議論

（４）情報伝達
- ≪電話≫電話口での会話を想定し、他班担当者と直接会話
- ≪FAX・メール≫様式に伝達すべき内容を記載し、各班のボックスに入れる

（５）発表
- 災害対策本部への経過報告等を想定し、各班から発表
- 演習終了後には班ごとに振り返り会議を行い、演習を通じて得た成果・課題を発表

演習の成果・課題

- 多くの参加者から、「府の計画や災害廃棄物処理の手順が理解できた」「連携の大切さを実感した」「平時の演習の重要性が分かった」といった声が寄せられた。
- 一方で、「図上演習という研修手法を良く知らないうちに演習が開始されたので、対応に戸惑った」という意見もあり、今後は、座学による事前研修と図上演習をバランスよく織り交ぜて実施することが有効と考えられる。

図上演習モデル事業の実施に関する振り返り

◎事業実施の成果

①大阪府の実情に即した図上演習を実施するため、大阪府（環境農林水産部循環型社会推進室資源循環課、健康医療部環境衛生課）及び近畿地方環境事務所と**５回に渡る打ち合わせ**を実施。**顔の見える関係を構築**しつつ、演習計画を作成することができた。

② 府単位で演習を実施することで、**府担当者及び府下市町村担当者が災害廃棄物処理の重要性・困難さを実感**することができた。

③ 今回の演習では、実施事例の少ない災害時の**し尿処理対策についても実施**し、府と市町村の連携方法等についての確認を行った。

◎図上演習の実施を通じて得られた主な課題と対応策

主な課題	対応策
図上演習のルールや進め方が十分に理解できなかった	◎図上演習の事前説明会を実施
環境部門と衛生部門で参加者数に大きな差があった	◎衛生部門職員を配置する班、配置しない班など班構成に工夫 ◎ごみ処理、し尿処理を分け、個別に演習を実施することについても検討
研修・演習の頻度増加やエリア別実施の要望があった	◎市町村間で締結している協定の実効性を高めるため、市町村が中心となって地域エリア内や一部事務組合と連携した研修や図上演習を検討
班により十分に討議できていないところがあった	◎各班にアドバイザーを配置 ◎班内で時間をかけて討議をすることが重要であることを十分に説明